

企画名： 「南相馬と子どもたち」
実施日時： 2012年1月15日11時50分～13時20分
実施場所： パシフィコ横浜会議センター 3F 311+312
登壇者： 高橋美加子、須藤栄治（つながろう南相馬）
伊藤孝介（NPO 法人フロンティア南相馬）
武田信大、合田茂広（一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンター）
参加人数： 約200人
文責： 合田茂広

「多くの人に、南相馬の現実を知って欲しい」という思いから、東日本大震災と福島原発事故を受けて立ち上がった南相馬の地元団体である「つながろう南相馬」と「フロンティア南相馬」、そして災害時の人道支援を行うピースボート災害ボランティアセンターの三団体が協力し、シンポジウム形式で発表を行いました。

会場には、老若男女さまざまな年代の方々が集まり立ち見が出るほど。その中には、福島から会議に駆け付けた方、福島出身の方々が3割近く参加してくれており、つながりを作ることができたのも企画を実施した大きな成果だと思っています。

「フロンティア南相馬」の伊藤さんからは、震災後、地元の友人たちと立ち上げた「フロンティア南相馬」への想い、支援物資配布、ストレスを抱える子どもたちが外で遊べるように行った「ふろんてい家」遠足プロジェクト、南相馬の生産者を応援する「復興デパートメント」などの活動を紹介していただきました。

「つながろう南相馬」の高橋さん、須藤さんからは、原発事故に巻き込まれないように一時避難した先での放射線測定検査を受けたエピソード、地元で元気を取り戻したいと再開したお店のこと、地元行政にも批判ではなく「ありがとう」から始めることで様々なつながり、イベントなどが可能になったことを紹介していただきました。

「ピースボート災害ボランティアセンター」の武田さんからは、郡山の実家で経験した震災時の体験、宮城県石巻市でのボランティア、夏休みに南相馬の中学生49人が参加したピースボートクルーズ「福島子どもプロジェクト」などの紹介がありました。

参加者の方々も、ニュースからは伝わってこない福島で暮らす日常生活の苦しみや子どもたちが置

かれている状況に、直接耳を傾ける機会となり、真剣に聞いてもらっていました。当初目的としていた「現実を伝える」以上に、登壇した団体同士、企画に参加した同志が「つながる」機会になりました。それぞれが震災後に立ち上がった団体や個人。今後も、このつながりを活かし、福島これからに向けて積極的に協力していきたいと思っています。

<各団体ホームページ>

- ・ NPO 法人フロンティア南相馬 <http://www.frontier-minamisoma.org/#>
- ・ つながろう南相馬 <http://minamisoma311.web.fc2.com/>
- ・ ピースボート災害ボランティアセンター <http://pbv.or.jp/>

<今後の活動>

- ・ 2月18日、19日「南相馬ダイアログ」 <http://minamisomadialog.iku4.com/>
- ・ 福島子どもプロジェクト2012 <http://ameblo.jp/pbfukushimayouth>

※2011 年度ブログ

